

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	桜井の里福祉会の理念を実践している。地域密着型の意義を踏まえて、年度ごとに重点方針を立てて実践をしている。また、定期的にフロア会議等で振り返りを行っている。	地域密着型サービスの意義を踏まえ、年度ごとに重点目標を立てて理念を振り下げている。日々の業務日誌の中でリーダーはその日の職員と共に振り返り、3ヶ月1回の部署会議では管理者と職員全体で具体的なケアに反映させているかを話し合うことで統一を図り、理念を共有した実践に結びつけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加をしている。こいて茶屋を開催して地域の方を招いて交流をしている。納涼祭を行い地域との交流をしている。日常の買い物、弥彦の行事に参加している。今年度は職員とご利用者のみで開催。	昨年までは参加していた地域の祭りや行事は開催されず、「こいて茶屋」は利用者と職員のみで開催となり、中学生の総合学習ウオーケラリーは開催場所として継続使用されている。利用者との日常的な買い物は地域の馴染みの店舗で購入することで地域交流を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	村の認知症の方への取り組み(認知症総合支援会議、RUN伴、声掛け運動)に参加している。いつでも来て頂ける様にこいて茶屋を開催したり地域の方へ情報を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者の生活の様子を写真、動画を用いお伝えし、意見交換をしている。頂いたご意見をサービスに反映している。	運営推進会議は感染予防から聞き取りと書面運営となっているが、今後は利用者を除く民生委員、役場福祉課、地域包括支援センター職員や地元区長等、利用者家族と施設管理者で再開を予定している。利用者の生活の様子等を伝え、評価結果報告や意見交換の場として利用者サービスに反映できるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	弥彦村役場の方に運営推進会議の構成員になって頂いており行事にも参加して頂き、サービスの取り組みをお伝えし、意見を頂いている。こいて茶屋やイベントのお知らせを掲示してもらっている。	役場の職員は運営推進会議のメンバーとして会議だけでなく行事へも積極的に参加する中で、事業所の実態や利用者の暮らしぶりを伝えている。管理者は村の研修会や総合支援検討会(チームオレンジ)に参加し、地域ぐるみの課題として取り組み協働の関係を大切にし、その役を担っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアについて研修を行っている。身体拘束防止委員会を設置、指針の整備、運営推進会議での意見交換を行っている。玄関の施錠は行なわず(夜間は防犯の為施錠)いつでも外に出掛けられる環境を提供している。	法人の「身体拘束を行わないケア」に参加し防止のための具体的なケアを学び、意識向上に努めている。いつでも外へ出かけられる環境を提供しながら利用者の思いに寄り添い、身体力を活かしながら安全確保しつつ、抑圧感のない自由な暮らしを支援するよう取り組んでいる。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	1年に1回桜井の里福祉会で策定した「高齢者虐待防止のためのマニュアル」を用いて研修を行っている。また、フロア会議で不適切なケア等見直しを行い日々意識しながら支援をしている。	年2回法人の高齢者虐待防止研修に参加している。「防止マニュアル」を用いて不適切なケアが日常的に支援されていないか、プライバシーに関わる言葉かけの配慮は出来ているか等、フロア会議で見直しと検討を重ね、職員間で意識しながら日々の支援に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	桜井の里福祉会で研修を行い学ぶ機会を持っている。ホーム内に権利擁護、成年後見制度の冊子を用意している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は見学をして頂き、重要事項説明書を説明後、契約の同意を頂いている。改定時は十分に説明を行い合意書を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。苦情申し立て窓口を設けている。頂いたご意見、苦情は報告書を作成し改善策を立て掲示している。	玄関には意見箱が設置され、アンケート形式で回答しやすい用紙が置かれているが活用されていない状況が窺える。利用者と家族の会としての「希望の会」は、意見や要望等を聴き取る機会となっているが、新しい生活様式に変化する現環境の中では活かされていない状況である。	新しい生活様式の中でも利用者・家族等の思いや意見・要望等を聴く機会を設け反映できるよう検討と工夫が必要となる。利用者満足度調査や無記名アンケート等を活用し、変わりゆく生活環境の中でも利用者・家族等の声を細やかに引き出せて、その思いに寄り添えるよう定期的な取り組みが期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週に1回施設長参加のミーティング、月1回フロア会議を通じて意見交換をしている。また、職場風土向上委員会があり意見や提案を聴く機会を設けている。	職場風土向上委員会は年1回の職員アンケートを実施し、年度末には回答が届く取り組みが行われている。「木曜ミーティング」では法人施設の管理者が来訪し、意見交換や利用者の生活環境の相談、運営に関する提案の機会となっている。月1回のフロア会議では職員の意見や要望等を聴く機会となるよう心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場風土向上委員会で年に1回アンケートをとり意見を伺っている。また、人事考課を行い個別で話し合いを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、フォローアップ研修、階層別研修を段階に応じて研修を行っている。資格取得のサポートを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの情報交換会、交流会に参加している。認知症実践者研修の実習を受け入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス担当者会議を行い、ご本人からの意見を伺い、サービス利用時は信頼関係を築ける様に支援している。サービス利用前になるべく見学もして頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス担当者会議を行い、ご家族からの意見を伺い、サービス利用後は信頼関係を築ける様に支援している。サービス利用前になるべく見学もして頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス担当者会議や担当のケアマネジャーと連携して必要なサービスの検討をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者が培ってきたことをアセスメントしてケアに反映している。ご利用者に役割を持って頂き、時には職員に教えて頂いたりできる関係作りを行っている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプラン立案時はご家族からも意見を頂き反映している。日常の関わりにおいても外出や受診、行事に家族に協力して頂ける関係作りをしている。家族会を運営して家族の協力を得ながら支援している。	2ヶ月に1度は居室担当から家族へ利用者の近況を伝え、家族からの思いや意見を聞き取りケアプランの立案に反映させている。定期受診や「家族会」の運営、日常の関わりにおいても家族の協力を得ながら共に支え合う関係作りを築いている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅への外出、地域へ出掛ける事を支援している。行事を開催することで地域の方、馴染みの方との交流を支援している。	昔から利用している理美容院に行き続けている利用者や入居以前からのかかりつけ医を継続している。外食や買い物は地元の馴染みの店へ行き、交流に努めている。はがきや手紙を書く利用者へは関係が途切れないよう支援を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い方同士での席の配慮、入浴、外出等支援している。職員が橋渡しをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了したご家族に運営推進会議の構成員をして頂いたり、行事のお誘いをしている。日常的に来て頂ける様声を掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりから想いや希望を伺っている。ケース記録に入力して情報を共有している。また、ご家族に生活歴を伺うように努めている。	職員は1日一つ、利用者の希望や思いを丁寧な聴き取りからエピソードを引き出し必ずケース記録に残し、職員間の共有情報として日常支援に役立たせている。ケアプランは居室担当者が主となり、家族の思いや意向を面会時や電話にて伺い、利用者の生活理解の把握に努めている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回利用までにケアマネ、ご本人、ご家族から情報を頂き利用後は日々の関わりやアセスメントを通じて把握に努めている。	入居前に本人・家族・これまでの利用サービスの関係者等から情報を得ている。また、センター方式シートを家族に直接記入してもらい、より多くの情報を引き出すように努めている。アセスメントシートは日々の関わりの中で知り得た情報を基に、居室担当者が3ヶ月毎に見直している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子をケース記録に残し、毎日の様子をミーティングで共有している。3ヶ月度にモニタリングを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	こいてでの生活を豊かにするためにご本人、ご家族の意向を伺い、専門職(介護士、看護師、計画作成者)でカンファレンスを行い現状に即した計画を作成している。	ライフサポートプランの様式を用いて介護計画を作成している。作成前には必ず要望や目標を本人・家族等から聞き取り、カンファレンスにも参加されている。また、利用者全員の短期目標や更新日をまとめた一覧表があり、各居室に介護計画書を置くことで、職員が介護計画を意識した支援ができるよう工夫がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子をケース記録に入力している。申し送り事項は確認したチェックをしている。日々の申し送りでも意見交換をしている。3ヶ月のモニタリングに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者の希望に添って自宅への支援、外出の支援をしている。受診時はご家族が来れない時は代行の支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お一人おひとりの地域の情報を得ながら老人会、地域行事への参加を支援している。またボランティアの協力もあり交流会の支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前からのかかりつけ医を継続している。受診時は日常の様子や課題を伝えて受診して頂いている。家族が都合で行けない時は代行をしている。	本人・家族等の意向を確認し、入居前からのかかりつけ医の受診・往診を継続している。基本的には家族へ定期受診の付き添いをお願いし、必要に応じて職員が同行している。受診時には普段の様子や変化をまとめた書面を持参してもらい、医師との情報共有に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が週に一度事業所に来て健康状態の把握を行っている。24時間オンコール体制にて普段から相談したり緊急時は事業所に来てもらい連携している。訪問看護ステーション・桜井との契約。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院には職員が同行して入退院が安心して出来るように情報提供等支援をしている。ご本人、ご家族、病院との関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、重度化終末期に看取りの支援について説明し希望された方には同意を頂いている。かかりつけ医、ご家族と相談しながらチームで支援している。	入居契約時に重度化した場合や終末期について説明し、事業所での看取りを希望する場合は同意を得ている。重度化した場合や看取り時は主治医、家族、看護師や職員間で連携を取り合いながら、最後までその人らしい生活が送れるよう支援している。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	桜井の里福祉会での研修を定期的に行っている。また、急変時、事故発生時のマニュアルをいつでも確認できるようにしている。	法人の研修会へ参加した職員が伝達講習を行い、定期的な訓練を実施している。急変時や事故発生時の対応マニュアルが整備され、いつでも確認できる場所に配置できている。個別のフローチャートや持参品リスト、緊急連絡先一覧表を作成し、速やかな対応が可能となっている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回火災の避難訓練、年2回水害の避難訓練を行っている。年2回水消火器の訓練を行っている。地域の方にも参加して頂いている。	年間計画を基に火災、水害、行方不明者発生時の訓練を行っている。また、訓練には地域住民や近隣の同法人事業所にも参加してもらい、協力体制を築いている。夜間想定訓練ではカーテンを閉め、照明を落として行い、メール配信訓練では事業所に駆け付けられるかどうかを返信してもらうなど、実践的な訓練を実施している。	事業所は地域の福祉避難所に指定されており、自家発電や防災用品が準備されているが、倉庫に備蓄品が高く積み重なって収納されていたり、食品の賞味期限が切れてしまうなどの現状が窺える。安全面を考慮した置き場の工夫や整理、防災用備蓄品リストの作成、ローリングストックの計画など、今後の改善と取り組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の関わりの中で職員同士で不適切なケアにならないように気付きを高め、定期的なフロア会議等で意見交換している。プライバシーに関わることはバックヤードで話すようにしている。	法人の職員信条の中に「尊厳の保持」が掲げられており、毎日のミーティングや毎月のフロア会議の中で不適切な関わり方がなかったかを話し合っている。プライバシーに関する研修も行われ、記録等の個人情報には注意して扱い、適切に管理している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができる方には希望を伺っている。出来ない方にはこちらから選択肢を用意したり表情からくみ取っている。また、ご利用者の会を開催してご利用者からの意見を聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の生活リズムを大切にして起床、就寝、食事、入浴等の支援をしている。必ずご利用者に伺い同意を得て支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に鏡を見て整容をして頂いたり、出来ない方には表情等からくみ取り生活歴からの情報等を元に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立はご利用者と相談したり、広告を見て一緒に買い物をしたり、好き嫌いを把握して代替品を提供している。また、外食の支援もしている。	あえて事前に献立を決めず、冷蔵庫内の食材を確認しながら利用者の希望に合わせた家庭的な食事を提供している。スーパーや青果店は地域の店を利用し、季節ごとの旬な食材を取り入れている。法人の管理栄養士が毎月訪問し、献立についてのアドバイスや衛生管理面の点検と改善等を受けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人の食事量を把握してチームで情報を共有している。看護師に相談したり必要に応じてかかりつけ医に伝えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアを行い、出来ない方には職員が行っている。必要に応じて歯科受診、往診をしている。協力歯科の田村歯科による年2回の訪問診療を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツから布パンツの支援を行い尿意や便意が回復している。トイレでの排泄が出来るようになったケースも多い。パッドの使用も排泄パターンを把握して減少している。	利用者個々の排泄パターンや尿便意のサインを把握し、可能な限りトイレで排泄できるよう支援している。また、ほとんどの利用者が布パンツを着用し適切な排泄用品を使用することで、夜間の安眠確保に努めながら安心・快適に過ごしてもらえるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩、体操を行っている。水分もしっかり摂って頂いている。必要に応じて看護師、かかりつけ医と連携している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりに希望を伺い入りたい時入浴の支援をしている。同性介助希望の方には対応している。看取り介護の方も体調をみて入臆することができた。	曜日や時間固定をせずに希望を聞いて対応し、入浴間隔をみながら声を掛けたり、希望時は同性介助の配慮をしながら保清と入浴を楽しめるよう支援している。浴槽の入れ替えを行ったことで座位のまま入浴が可能となり、重度化した場合でも負担を軽減しながら安全に入浴できるよう個々に添った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握して昼寝をして頂いたり、体調を伺って静養して頂いている。安心して眠れるように不安な時は一緒に過ごしたり安心できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の薬ケースに薬の一覧表を貼り効能、副作用が確認できるようにしている。薬の変更や受診時の情報を共有して変化ある時は看護師、かかりつけ医と連携している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や楽しみが出来るように環境を整えている。役割を持って家事等して頂いている。して頂いた時はお礼と感謝を伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日はご利用者に外出の希望を伺って支援している。季節に応じた外出を支援している。外食や、観劇の希望に支援することができた。	季節ごとのドライブや家族等に参加を呼びかけ、バーベキューや花見を計画するなど施設行事としての外出を設けている。また、個別の希望に合わせた買い物や外食、近隣の散歩など、日常的な外出支援も行っている。今年新型コロナウイルスの影響を受けて中止となったことも多いが、安全面を考慮しながら外出や交流の機会を少しずつ増やしていきたいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で金庫に財布を管理してお小遣いを持っている。ご家族になくなりそうなときは相談して補充してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人からの電話の時は取り次いでいる。職員宛でもご本人にお繋ぎできるように働きかけをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度管理をして空調の管理をしている。共有スペースには季節に応じた装飾をしている。リクライニングソファやクッションを使用し、くつろげる環境を提供している。	共用空間は天井が高くゆったりとした造りで、木のぬくもりや暖色系の照明が家庭的な温かみを感じさせてくれる。ほどよい高さのダイニングテーブルやリビングのソファ、小上がりの和室、季節が味わえる大きなウッドデッキなど、利用者が好みの場所で気の合う人と居心地よく集えるような環境を提供している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳、リビングと一人でも過ごせる様な環境を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものを置いて頂いたり、生活で必要な物を揃えたりしている。	前回の外部評価で居室の環境作りを課題に挙げており、自宅のように寛げる居室になるよう利用者と共に取り組んでいる。居室担当者が何度も自宅を訪れ、本人・家族と相談しながら使い慣れた家具や馴染みのものを置き、居心地よく使いやすい居室づくりを工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室環境はご利用者の過ごしやすい環境や馴染みの家具を置いている。共有スペースにはトイレや玄関に簡易手すりを設置したり、広い空間作りを意識して行っている。情報を伝えるために掲示板やお知らせを掲示している。		